

第1回名張八朔参宮

名張ゆかたでお参り～Bon Odori Fes～ 始まる



8月1日を暦では八朔という。伊勢では昔から五穀豊穡・無病息災を祈った「八朔参宮」という習慣があり「伊勢神宮外宮さん、ゆかたで千人お参り」という祭りが復活していた。今年で28回になる。名張でも伊勢神宮とコラボして同じ日に「八朔参宮名張ゆかたでお参り～Bon Odori Fes～」が開催され、宇流富志禰神社と市役所前広場は終日賑わった。主催は「なばり未来会」。

午前9時30分から、同市平尾の宇流富志禰神社で、名張の伝統文化に触れる催しが始まった。能楽の魅力伝える「能を考える会」の「こども仕舞」。南町獅子神楽保存会の迫力ある「獅子舞」には子ども天狗が交じって汗だくで活躍。今春、夏見廃寺で初代斎王大來皇女(おおくのひめみこ)を偲んで創作された優雅な「ひめみこの舞」を「隠(なばり)夏見ひめぼたるプロジェクト」8人の「ひめぼたる」達が舞った。11時から歴史研究家・作家の撰津守さんと前伊賀市長の岡本栄さんに地元英心高校生も加わった「藤堂家・NHK大河ドラマ歴史トーク」があった。興味ある話題で予定時間を大きく過ぎて話も尽きなかった。

市役所前広場は、キッチンカーやグッズの販売が並び、午後から伊賀流真太鼓、カラオケ、英心高校生によるオリジナル盆踊りのレクチャー、4つのダンスチームが日頃の練習の成果を発揮し、とりを天正みだれ太鼓が締めると午後の時から「大盆踊り大会」が始まった。

やぐらの周りで盆踊りをリードしていたのは「なばり未来会」若い「ひめぼたる」達と年配の「名張音頭の会」の皆さん。曲は定番の「名張音頭」「江州音頭」「河内音頭」にアニメソングやJ・POPなどいろいろ。若い「ひめぼたる」達がやぐらの上で「次はヨアソビの『アイドル』と言って曲が始まると、全員が見事に合せて踊り始めたのには驚いた。

蔵持町原出からは、朝の舞に久保田佳夏さん(小5)が参加し、盆踊りには長女の有姫さん(高3)、三女の好美さん(中3)も加わった。朝から頑張った佳夏さんは「暑い! しんどい! 楽しい!」と笑顔だった。

◎大橋渡プロデューサー

今回の「八朔参宮」を進めた「なばり未来会」会長の大橋渡さん(54)は、東京の大手芸能プロの第一線で活躍していたが、家庭の事情で2024年11月名張に戻ってきた。名張を元氣な街にしたいと、いろいろな人から相談を受けた。

大橋さんは以前から伊勢市とは仕事で繋がりがあった。名張に帰ると直ぐ「名張夏見ひめぼたるプロジェクト(名谷快子代表)」で

蔵持市民センターだより号外

10月4日
(土曜日)

<発行元>
蔵持市民センター
<共催>
名張市蔵持町原出
314番地の3
TEL:0595-63-0235.
平日:9時～16時

(千種啓義)



夏見廃寺を市内外にアピールする方法に携り、伊勢神宮の雅楽部・芸術監督の岡茂男氏の協力で「ひめみこの舞」をプロデュースした。「若い人達が主役になっていかないと街は明るくならない。若者が輝くプロジェクトを考えたい」と閃き「八朔参宮」で伊勢神宮とのコラボに至った。「『ひめみこの舞』も『八朔参宮名張ゆかたでお参り』も今年が第1回。来年も再来年もその先も継続・拡大して名張を発信し続けて行く」と目を輝かせた。

「なばり未来会」は名張市内の各地で、イベントや研究会などをボランティアで実践している実績ある人達約20人で構成されている。今回を機に、実践する発信者が大橋さんを中心に集まり、期待が持てる。「何とかなる」「市民も応援しなければならぬ」。